

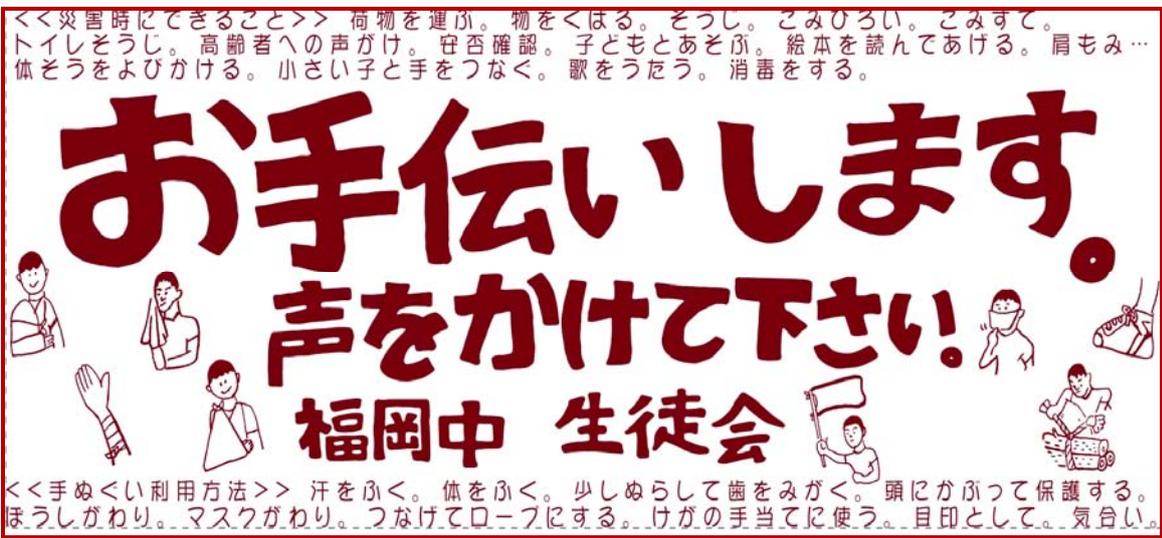
教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
1【かかわる】	⑪【ボランティア】他の人や地域社会に役立つことを自分から進んで実践し、他人の喜びを自分の喜びとして共感する。	生徒会活動

【題材】「わたしたちの防災～東日本大震災から学ぶ～」防災手ぬぐい作成

【対象】二戸市立福岡中学校生徒、保護者

【実践の概要・詳細】

- 1 目的 東日本大震災関連の新聞記事を読み返すことから震災時の様子を振り返り、中学生としての望ましい行動はどうあるべきかを考えさせる。
地域のため、他者のために活動できる中学生をめざすという意識を強めさせる。
- 2 対象 平成24年度全学年 平成25年度主として1学年
- 3 主管 生徒会保健委員会
- 4 内容 災害時に中学生ができることを話し合い、項目を手ぬぐいに印刷する。
文化祭で活動を紹介するとともに手ぬぐいの意義について説明する。
各家庭に配布し、防災リュックの中に常備してもらおう。
具体的な活動
 - ・デザイン（文字、内容を考える）
 - ・活用方法（どんな手当に使えるか、調べて実際にやってみる）
 - ・お知らせ（文化祭で発表、報告）
 - ・防災時の中学生の行動まとめ（文化祭で発表、報告）
- 5 完成品



- 6 活動の様子
 - ・新聞記事や写真集の中にあつた「がれきを片づけている中学生」の写真から、災害後を想起させつつ、手ぬぐいにのせる言葉について話し合いを進めさせた。出てきたのは、

「荷物の運搬、配布」「避難場所の清掃」「安心感を得るための方法（スキンシップ、声かけ、体操）」のような言葉であった。

- ・また子どもが元気だと大人も元気になるという話を聞いてから出てきたものとしては、「子どもと遊ぶ」「絵本を読む」「手をつなぐ」などの意見であった。
- ・こうした言葉をまとめて手ぬぐいの上の部分に《災害時にできること》として表記した。
- ・手ぬぐいの下の部分に表記した《手ぬぐい利用方法》については岩手医科大学の学生が作成したパンフレットを利用したが、消防士の方からの助言もいただきながらまとめた。
- ・東北地方の人の多くは『声をあげて助けを求めることが少ない（遠慮深い）』という話を聞いて、手ぬぐいに「声をかけてください」とあらかず方法を思いつき、真ん中に大きく表記することとした。

手ぬぐい活用法



腕をつる



人を呼ぶ



制作風景



ハチマキ



汗ふき



マスク



足首の固定

7 まとめ

文化祭での活動を通し、震災の被害や救助の現実、かけがえのない命について学ぶ機会とすることができた。

今年度の活動の振り返りで、震災への備えとして中学生ができる救急処置について学びたいという意見が多く出されている。「助けられる人から助ける人へ」という意識が育つ好機と捉え、今後「レスキュー講座」を実施する予定である。消防署等の協力を頂きながら、救急処置の手技を体得させ、自助・共助の精神を育てていきたい。

年度をまたぐ活動を進める中で防災意識、地域社会への貢献意識の高まりを感じている。来年度に向けて子どもたちの考えや発想を生かした活動を展開していきたい。